

できることを、細々と

二ツ森 恵美子 (さいたま市地区)

昨年から続くコロナ禍におきまして、お力を尽くしている皆様に心から感謝申し上げます。
私は現在、市よりさいたま市地区に委託されている産婦・新生児訪問事業や、保健センターでのパパママ教室のお手伝い、昨年10月から始まった施設でのデイケア型・宿泊型産後ケアのお手伝いなどを少しずつ、細々と活動しています。

臨床の経験は新卒からの3年ほど。フルタイム勤務をしながらの子育ては私には難しく、退職してからは長い間主婦をしていました。何かできることを始めようと、5年前より産婦・新生児訪問の訪問指導員を始めました。

数年前、スキルアップを目指して、産婦・新生児訪問の他に、施設でのアルバイトやパートに就いたことがあります。臨床のブランクは10年以上になっていたため、経験不足にすっかり自信をなくしていた私は、未経験な分野を任せられることが怖くなり、最初の職場を退職。次の職場も新しいことについていけない自分を不甲斐なく感じて落ち込んでしまい、家庭にも影響し、やはり退職しました。

施設での再就職に失敗したことで、退職後しばらくいろいろなことを考えました。かなり考えました…「10年以上前に退職した時、多忙な毎日に自分是对応できなかった。そして今回も。忙しいと焦ってしまい、落ち着いてやろうとすると、遅くなってしまう。不安なことに対しては緊張してしまう。結局、昔も今も、そういう自分が、自分なんだ…。これからは私ができることを無理せずやっというこう。」そんな考えにたどり着きました。

今、産婦・新生児訪問やパパママ教室のお手伝いなど、楽しくやらせていただいております。赤ちゃんの抱っここのコツなどお伝えしたとき、喜んでいただけると励みになります。

さいたま市の産婦・新生児訪問は、さいたま市地区助産師会への委託業務になっており、会として取りまとめて市と連携しているため、心強いです。また、訪問は個々で活動しているため、定例会などで困ったことや、迷ったことなど、情報共有でき安心に繋がります。ご尽力されているさいたま市地区の役員の皆様に感謝申し上げます。



令和2年度表彰受賞者の紹介 (※令和3年2月現在/受賞日順)

表彰者	地区	受賞名
福井佳代	蓮田地区	埼玉県看護功労者知事表彰
平野素尚	さいたま市地区	日本助産師会会長表彰
萩野谷良子	さいたま市地区	日本助産師会会長表彰
阿部一子	川越地区	日本助産師会会長表彰
大石智子	朝霞地区	埼玉県公衆衛生事業功労者知事表彰
安田紀子	さいたま市地区	母子衛生研究所母子保健奨励賞
高松京子	鴻巣地区	公衆衛生事業功労者日本公衆衛生協会会長表彰

通常総会のご案内

令和3年5月15日(土) 10:00~
web会議ツール「Zoom」を使用したオンライン開催

埼玉県助産師会会報



～ 埼玉県助産師会の理念 ～

すべての生命を大切にし、
社会から信頼されるケアを行います

No. 47・48
合併号
2021.3.18
発行



写真提供：天満屋敦 千幸 助産師 (春日部地区)

CONTENTS

- 2 会長挨拶
- 3 令和2年度役員紹介/助産所部会理事挨拶
- 4 保健指導部会理事挨拶/勤務助産師部会理事挨拶
- 5 研修会報告
- 6,7 特集「令和2年度通常総会
～新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のもとで～」
- 8 スポットライト「できることを、細々と」
今年度の表彰者/通常総会のご案内

会 員 数	351名
(2021.2.19 現在)	
助産所部会	50名
保健指導部会	128名
勤務助産師部会	170名
名誉会員	0名
特別会員	3名

【新会員の募集】
助産師会の会員を随時募集しています。
ホームページをご覧ください。
TEL: 048-799-3614
E-mail: mw-saitama@royal.ocn.ne.jp
一般社団法人 埼玉県助産師会 事務局

会長挨拶



ごあいさつ

会長 牧岡晴美

年も明け、令和3年を迎えました。

昨年の令和2年始めより、COVID-19感染拡大の報道が始まり、緊急事態宣言が発令され、解除されてからも第一波から第三波と感染拡大が続き、長い自粛生活を余儀なくされました。あれから1年以上になりますが、いまだに収束の気配のない中、埼玉県助産師会会員の皆様におかれましては、“感染しない、させない”を念頭に日頃の活動を心掛けていたこととお察し申し上げます。

コロナ禍において、地域での母親（両親）学級や集団検診などは中止のところが多く、妊産婦さんは、病産院に入院中も出産時の家族の立会い中止や面会制限や中止、部屋の出入の制限など不自由な状況が強いられています。退院後も外出を控え、他の子育て中の母同士の交流もほぼ無く、社会や地域からも多くの母児が孤立化しております。長引く状況に産後うつや児童虐待の増加も懸念されます。

昨年の9月より、新たな委託事業として「新型コロナウイルスに感染した妊産婦への寄り添い型支援事業」がスタートしました。電話相談オンラインでの相談で対応として、妊産婦さんの不安や孤独感の解消・育児不安などの支援を目的として実施させていただきます。また、新型コロナウイルスに関する不安についての相談にも対応も可能な相談窓口として、不妊・不育・妊娠サポートダイヤル事業に11月より水曜日が拡充され、対応しています。

そして、昨年は感染拡大を鑑みて、ほとんどの研修会がオンラインでの開催となりました。開催を企画する側も参加する側も少し慣れてきたところだと思います。他県や遠方からの参加者や、時間的に難しかった方も参加しやすくなったのは良かった点かと思えます。

今年度は、産後ケア事業が各自治体で実施されるかと思えます。自治体ごとで内容は異なることもありますが、必要な方に必要な支援が行き届く事が望まれます。

皆が不安な今こそ、助産師により、妊産婦さんや育児不安を抱える母親を支える専門家として、個々に対して暖かく、包むような支援がされることを期待いたします。

今後も、会員の皆様がそれぞれの分野で社会的な役割が果たせるように、何ができるか、どうしたらできるかを工夫して、埼玉県助産師会一同、心を前向きに努力し、邁進して参りたいと思えます。



令和2年度 役員紹介



役員			
役職名	氏名	所属部会	所属地区
会長	牧岡晴美	助産所	越谷
副会長	渡邊薫	勤務助産師	川口
副会長	佐々木美幸	助産所	草加
総務理事・事務局	坂東美香	助産所	所沢
総務理事	津田ちひろ	勤務助産師	川口
総務理事	高橋律子	勤務助産師	熊谷
総務理事	飯島さちこ	保健指導	鴻巣
財務理事	村山祐子	勤務助産師	川越
財務理事	梅村久美子	保健指導	草加
財務理事	齋藤恵子	勤務助産師	幸手
助産所部会理事	近藤直子	助産所	川口
保健指導部会理事	横井聖美	保健指導	越谷
勤務助産師部会理事	高森妙子	勤務助産師	鴻巣
監事	瀧田洋子	助産所	越谷
監事	大石智子	保健指導	朝霞

委員会

委員会名	委員長名	所属部会	所属地区
安全対策	北田ひろ代	勤務助産師	所沢
教育	渡邊薫	勤務助産師	川口
福祉	小杉山佳代子	助産所	所沢
広報	野口沙由梨	保健指導	草加
選挙管理	伊東優子	助産所	朝霞
災害対策	増子麻里	助産所	さいたま市
渉外	坂東美香	助産所	所沢

部会報告



助産所部会担当理事挨拶

助産所部会担当理事 近藤直子

今年度で部会理事の任は3年目が終了しようとしています。皆様のご理解とご協力のもと部会活動ができましたこと感謝申し上げます。

さて今年度の研修会は、COVID-19拡大防止のためオンライン研修を企画しました。テーマは「母児の安全を守る分娩管理」産婦人科診療ガイドライン2020をもとに葛飾赤十字産院の鈴木俊治先生にご講演していただきました。この学びを深めるために助産所内や会員同士の学習会を奨めてまいります。

次に助産所安全管理評価についてですが、毎年12月に分娩を取扱う助産所の評価をして日本助産師会に報告しております。評価項目には、1. 助産業務ガイドラインについて 2. 転院・搬送先の対応と報告 3. 記録の整備と管理 4. 薬品の使用と管理 5. 医療機器の整備・運用・管理 6. 安全確保のための体制と手順など11項目あり、その項目ごとに細かい内容で評価を行います。今年度はCOVID-19感染対策のチェック項目を独自で追加して9月に中間評価を実施いたしました。年に2度の評価を行ったことで、分娩取り扱い助産所において安全管理の意識づけはより一層高くなったのではと思います。今後もさらに安全管理意識と行動を高められるように働きかけていきます。

最後にCOVID-19が早く収束できて平穏な日常が戻りますようにお祈りすると共に、安全で安心な助産師のケアをいつでも提供できるように、そして助産所部会活動が発展できるように皆様のご助言を頂きながら活動していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



保健指導部会担当理事挨拶

保健指導部会担当理事 横井 聖美

令和2年度より、埼玉県助産師会保健指導部会の部会長に就任致しました横井と申します。埼玉県助産師会の会員の皆さま、保健指導部会の皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

令和2年は、私にとって忘れられない1年となりました。1月末にCOVID-19が出現し、私たちの生活は大きく変化しました。これまで思いのままにできていた行動が制限され、私生活や仕事が思うように進まなくなりました。その真ただ中に、私は部会長に就任することとなりました。皆が、日常のなかに少しの希望を見出しながら何とか生活を続け、あれから1年が経過した今でも、その感染力はとどまるところを知りません。皆さまもきっと、同じような思いをされてきたことと思います。

私は、COVID-19の問題に対し、保健指導部会の部会員にとって何が必要なかを考え続けてきました。部会員は、開業している者、勤務している者、委託を受けている者など様々な立場にあります。指示を受けるのではなく、自分自身で判断を下さなければならない場面が多いのもその特徴だと思います。そのような部会員から日々直面している問題を情報として集めること、またそれに対し皆で知恵を出し合い解決策を見出すこと、さらにそれを部会全体で共有することが必要なのではなからうかと思えます。

部会員の皆さま、ぜひ皆さまの情報を地区代表者にお伝えください。また、地区代表の皆さまには、引き続き情報をまとめて伝達する役割を担っていただきたいと思えます。せっかく所属していただいている部会です。この難局を皆で乗り越えていきましょう。



勤務助産師部会担当理事挨拶

勤務助産師会理事 高森 妙子

2019年12月中国・武漢市で発生したCOVID-19の感染拡大は、瞬く間に世界中に広がり、約1年間で世界感染者は1億人、死者200万人に達するとも言われます。

私はそのような情勢の中、勤務助産師部会の担当理事の2年目の任期が終わります。助産師会の活動も、一人一人の理事役員、臨床の助産師達の活動もCOVID-19の感染拡大下における活動でした。私たちはこれまでにない社会生活の中で1年間に2度も緊急事態宣言発令を受ける経験をしました。

ソーシャルディスタンスは人と人の分断を余儀なくさせます。妊産婦さんは夫や家族のサポートが受けることができない1人での分娩に、どんなに心細い思いをしたでしょう。胎児への感染も大きな不安になっていることでしょう。そこに寄添っている助産師は、ご自分や家族、子どもへの心配をしながらも、使命や任務として妊産婦さんに寄り添い、励まし、母と子の命を守っています。心より敬意を表します。

人々はその英知で直接タッチングは出来ませんが、会合や会話をインターネットでつないでコミュニケーションをはかる技術を新しく手に入れようと思いました。インターネットで妊産婦さんの相談を受け、出産準備教育をプログラムした助産師も出てきました。私たち勤務助産師部会員は、研修会をオンラインでもち、「プレコンセプションケア」と「倫理問題」に取り組みました。助産師の新しいケアの概念枠の広がり、自分自身の倫理観の深まりを学びました。助産師達は優しく親切で、時には厳しく、たゆみなく前向きです。



研修会報告

月
日

産後ケア研修会

11月に教育委員会と助産所部会合同でオンデマンド研修「産後ケア研修会」を開催しました。2019年に母子保健法の一部を改正する法律が出され、各市町村の産後ケア事業の実施の努力義務が規定され、(公社)日本助産師会で産後ケア実務助産師研修修了者認定を開始したこともあり、産後ケアの重要性が増し、助産師の力が必要な状況を鑑み、今年度は産後ケアの研修会を開催しようと昨年度から考えておりました。53名もの方が参加してくださり大変感謝しております。

講師はわこう助産院院長、伊東優子さんと、川口いちご助産院院長、石上麻似さんをお願い致しました。伊東講師には、わこう助産院とわこう産前産後ケアセンターの現在の取り組みや、その中で助産師の役割等をお話して頂きました。石上講師は産後ドゥーラとしても活躍されており、なぜ助産師だけではなく産後ドゥーラの資格が必要かという石上講師の原点や、仕事内容と産後ドゥーラを依頼する人の特徴、助産師と他職種との協同についてもお話がありました。

お二人の講義に共通していたことは、妊娠期から妊婦と関わり、妊婦・家族・生活背景を把握し、産後に支援が必要な人に対して必要なサービスを受けられるようにサポートしていることです。助産師は妊娠期から妊婦に密に関わる職種であり、予め産後にハイリスクとなる人を予知し、必要な支援が受けられるよう他職種との連携を図りながら、支援をしていく必要があることを今回の研修で学ぶことができました。

教育委員長 渡邊 薫

医療安全研修会

11月2日、埼玉県総合医局機構地域医療教育センターにて医療安全研修会を開催しました。昨今、COVID-19感染症が懸念される中ではありますが、参加者の皆様のご協力もあり、感染予防と対面講義の効果を両立させることで有意義な研修会にすることができました。

これまで安全対策委員会では、事例分析することで母児に必要な安全について検討を重ねてきました。その結果、分娩の取り扱いの場面に問わず、医療安全は全ての助産師に必要な概念であるという認識に至り、また、医療事故は助産師個人の安全に対する倫理観だけではなく、助産師を取り巻く環境も深く関与していることが分かりました。

そこで今回の医療安全研修会では、助産師を取り巻く環境の一つである「対話」に着目し、医療メデイケーションの視点から助産師に必要な危機管理について学べる研修会を企画し、葛飾赤十字産院の医療安全管理者である野町寧都先生にご講義いただきました。当日は29名の参加者があり、アンケート結果から、「産婦との関わりの大切さを学んだ」「産婦だけではなくスタッフや医療連携機関などの日頃からのコミュニケーションも大切であることがわかった」など、医療事故の発生要因には、助産師を取り巻く環境が大きく関わっていることを学んでいただけたと思えます。

今後も安全対策委員会では母児の安全を守るために、安全で安心な助産ケアを目指した研修会を企画してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

安全対策委員会担当理事 佐々木 美幸

さいたま市地区研修会 ～発達が気になる子ども達への身体支援のこつ～

11月8日、地区で初のオンライン研修会を開催しました。講師は、神奈川県立保健福祉大学教授、笹田哲先生です。NHK「ストレッチマン」の番組企画制作委員をされ、10月放送の「ウワサの保護者会」にもご出演されており、子どもの姿勢のなおし方について、お話されています。

今回の研修では、抱っこ・抱っこ紐・寝返り・四つ這い・伝い歩きの主に関心する乳児期の着地点と嫌がる場合の促し方について、ご講義いただきました。この時期の少しの体の歪みが、小学生になって学習動作(授業中姿勢を保つのが辛い、鉛筆・消しゴム・コンパスを器用に使えない)に影響し思春期には、体の不調となって現れる事を問題視されています。

片方の寝返りを嫌がる場合には、児の体幹を大人の手のひら全体で両手で包み込む、児の両手は胸の辺りへ、腰を支えて半分ぐらいまでサポートして、そこから児が自ら腹筋を使ってやるのが大切だそうです。私たちが両親へお話しする際、大変役立つ内容でした。

また、四つ這いの重要性と共に嫌がる子への促し方のコツも、教えていただきました。積み木遊びでは大人が児の後ろに座り、手を伸ばして積み木を取ろうとする時にお腹を支えてあげると、体が自然に前に倒れるのを焦らずに待つことができます。このように、先生が教えて下さる事はどれも、訓練や練習をやらせるのではなく、遊びの中で動作をする機会を作っています。また、先生の穏やかで優しい口調が、両親へ伝わりやすく、実践してもらうにはとても有効なのだと感じた研修会でした。

広報委員 小泉 万里子(さいたま市地区)

Baby madonna
乳頭キレツのケアに!
赤ちゃんのおムツかぶれにも

天然成分 100%
1歳(1歳個人)から
送料別

スキンケア指導で
人気です!

- お産セットに
- 産科での指導に
- 産院・母乳育児相談室で
- 母子訪問指導時に

※ベビーバードマドナは全商品の産科でベビーとママのスキンケア指導で採用されています。

ベビーバードマドナ
産院・助産師仕入価格 4g・1個/220円(税別)
お申し込み価格で人気です! (ベビーバードマドナ)

商品に関するお問い合わせ、ご注文は、
(医療関係者専用ダイヤル)
TEL.0120-28-2267
[販売元] Baby madonna マドナ株式会社

令和2年度通常総会

～新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のもとで～

令和2年度 一般社団法人埼玉県助産師会 通常総会報告

9月19日、埼玉県県民健康センターにて「令和2年度一般社団法人埼玉県助産師会通常総会」が開催されました。（会員数341名・出席45名・委任状146名・議決権行使書76名）

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のもとでの開催となり、初めて「書面による議決権の行使」を併用し、全ての審議が賛成多数で承認されました。さらに、安全な助産業務のためのリスクマネジメントについて、検討する事例の発生がなかったこと、研修収益が上がっていることを評価する報告がありました。コロナ禍で、生活様式の大きな変化がもたらされ、それらに対応した新たな取り組みが求められている中、埼玉県助産師会の重要性を改めて感じました。

令和2年度の代議員選挙では、牧岡晴美さん、渡邊薫さん、近藤直子さん、飯島さちさんの4名が選出されました。

広報委員 益山 まさ美（上尾地区）

議決権行使書を用いての総会開催に至るまで 旧選挙管理委員会理事 飯島さちこ

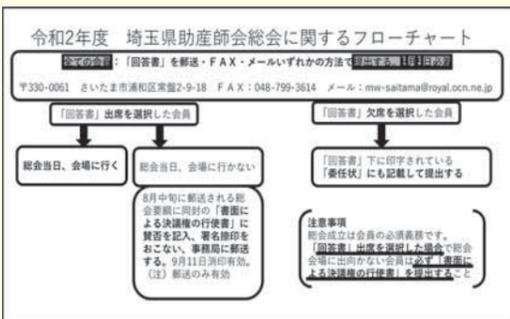
今思えば、COVID-19感染拡大状況の中での通常総会開催は、大変でした！

第12回（4月）理事会報告で『5月16日開催予定通常総会は、9月頃に委任状と議決権行使書による開催視野での検討』と告知され、第1回（5月）理事会報告で『通常総会は9月19日（土）とし、記念式典と部会・委員会等については行わないものとする。』との告知となりました。

初めての形での総会開催に向け、三役理事の助言と共に企画を始めました。まずは『議決権行使書』*1について知識を持ち、『委任状』*2との変容について学び、同時に日程の計画も企画しました。

地区長会の提案で『総会に関するフローチャート』の協力も得て、企画通りに進めていきました。『総会成立は会員の必須義務』ですが、委任状開票の時点で総会成立要件人数に達しておらず、議決権行使書でのご協力依頼を総会要綱の発送時に同封しました。回答書と議決権行使書との併用が十分に会員様へ伝わらないと同時に、郵便配送・返送での期間が短く、会員様へご迷惑をおかけしましたが、無事に総会を開催することができました。

次年度も同様の開催となると思われますので、今回の反省点を修正していけるよう望みます。一般社団法人ですが、小規模な自治会などが開催する方法「回答書」⇒「参加通知書」として『フローチャート』の見直しが特に必要と思います。



- * 1：『議決権行使書』とは、各議案に対して賛否を表明するもので、自分の意思を反映できる。
- * 2：『委任状』とは、議案の賛否を表明するのではなく、自分の代理人を定めてその人に全ての議決権を行使してもらう。代理人の名前を記載する（白紙委任状は無効）。

通常総会準備－会場設営－

総務理事 津田 ちひろ

中国湖北省武漢で原因不明のウイルス性肺炎が初めて確認されたとされる2019年12月、私たちは例年通りの通常総会準備を開始していましたが、翌2020年1月には日本でも新型コロナウイルス感染者の報道がされ始めました。相次ぐ感染拡大報道やマスク・消毒薬・日用品の買い占め等による入手困難の事態に不安を覚えながらも5月の総会までには収束するのではないかと希望的観測を抱いていました。ところが、4月には埼玉県を含む7都道府県に対して5月6日までの緊急事態宣言が発令され、いよいよもって5月の通常総会を延期するに至りました。関係機関各所・会員の皆様には延期のご報告が遅くなりご心配をおかけしたことと思います。



延期した9月の開催も第2波の影響を鑑みると予断を許さないものであり、総会において万が一にもクラスターを発生させてはいけないと準備を進めました。会場の収容人数制限と総会出席者の人数把握から、ソーシャルディスタンスを保ちながらどのような会場レイアウトが妥当なのかを考えました。大会議室を2部屋借りており、通常だと200人収容可能ですが収容人数は68席という指定でした。机1台につきイス1脚というレイアウトのため、出席した会員は十分なソーシャルディスタンスを保っていたと

思います。受付時のアルコール消毒、資料の手渡し禁止等スタンダードブリークーションはもちろんのこと来場者リストを保管し、発症報告に備えました。検温では非接触式体温計を新たに購入しましたが、入手が間に合うか冷や冷やしました。初めての取り組みではありましたが、令和2年度を教訓に「新しい生活様式」と共に3年度の準備を進めたいと思います。



浦和事務所の取り組み

埼玉県助産師会の事務所では、理事会や地区長会・委員会・部会などの会議の場、他、運営を支えてくださっている事務員と電話相談員の皆さんが週4～5日業務のため滞在しています。埼玉県委託の電話相談事業や、子育て・女性健康支援センターの電話相談もあり、できるかぎり存続できるよう感染防止対策を行いました。

「事務所から感染者を出さない・広げない」ことを目標に、健康管理の徹底や事務所使用時のマニュアルと感染症対応フローを作成、全会員に周知し、所内ではポスター提示、手指消毒薬や衛生資材を揃え、対面で会議が可能ないようにビニールカーテンやパーテーションを手作りし、3密を防ぐために会議時の人数の制限をするなどで対応しました。引き続き感染のリスクを避け、助産師会運営が滞ることのないよう皆様のご協力をお願いいたします。

旧総務理事 高橋 麻里子